

オリンダ通信

「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」会報

第10号

共同代表：松本敏之、大倉一郎
事務局：横浜港南台教会 秋吉隆雄
〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29
Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616
郵便振替口座番号：00210-2-97571

ブラジル・メソジスト教会のこと

小井沼眞樹子

アルト・ダ・ボンダーヂ教会に遣わされて、早くも5年経ちました。今年の下半期は、心身の健康を回復し、積極的に活動できたと思います。多くの祈りに感謝！

★ブラジル社会では、新たな動きが起こっている。バス代の不当な値上げに反対するサンパウロの学生デモに端を発し、政治の腐敗、社会の不正を告発し、基本的医療、衛生、教育、交通手段を求めて、7月頃から大規模なデモ行動がブラジル全土に広がった。社会を変えようとする市民意識の高まりと行動化がようやく始まった感があり、周囲の人たちの意見も概ね肯定的だった。しかし、合法的な反対運動が盛り上がるなかで、公共施設を破壊したり、バスに火をつけるなどの狼藉を働く過激グループが現れ、それに対する警察の取り締まりもエスカレート。その騒乱をメディアが映し出すので、あたかも反政府運動が犯罪的なものであるかのような印象を受けてしまう。市民意識や教育レベルに大きな差があるブラジルの社会問題の難しさを垣間見る思いである。組織化されたデモ活動は、今でも続いている。来年は、大統領、州知事選挙があるので、政治家もこれらの要求するところを無視するわけにはいかないだろう。しかし、実際どこまで具体的な政治改善につながるか？

折しも7月末、教皇フランシスコがブラジルを訪れ、カトリック「世界青年の日」に参加。困難な現実を恐れず、勇気をもって抵抗運動を続けるよう青年たちを励ました。（詳細はこちらへ。↓）

ぶらじるレポート「教皇フランシスコ訪伯の余韻」

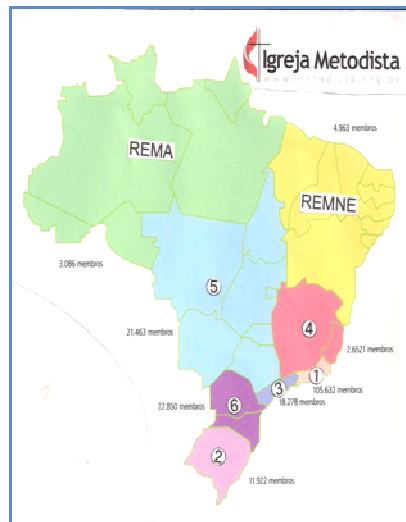
[javascript:wopen2\(/research/research_130928.pdf\)](http://javascript:wopen2(/research/research_130928.pdf))

けれど、これらのことは、アントニオ牧師とは個人的に話題にするが、教会の普段の活動では少しも話題に上らない。信徒たちは何も関心がないように見える。一体、ブラジル・メソジスト教会はこれらの社会気運にどう関わっているのか、それを知りたくて 教会が発行している機関誌 Expositor Cristão に目を通した。主要都市では何千人もの教会青年たちがデモ行進に参加し、メソジスト教会の固有性を再発見、生きる姿勢を問われていると発言している。ここにも地域格差の縮図を見る思いがする。アルト教会には、まだ一人も大学生がいない。市民運動からは全く外れている現実なのだ。

★ブラジル・メソジスト教会は米国の合同メソジスト教会を宣教母体として19世紀末から宣教が開始され、1930年に独立。教会憲章と教会規約を持つ。教規は4年ごとの教会総会議で見直され、昨年、規約改定版(2012-2016年)が発効した。

ブラジル・メソジスト教会 (2010年の統計)

- ・総信徒数：214,715名
(20年間で約270%、最近4年で20%の成長率)
- ・6教区と2宣教区(経済的自立困難区) → 地図参照
アマゾン=REMA、ノルデスチ=REMNE
- ・教会数：1038教会、373伝道所、
400伝道拠点
- ・国民総人口の22%がエヴァンジェリカ教会、
伝統的プロテスタント教会は4%。メソジスト教会の占める割合はその内の約2.7%。



第1教区リオデジャネイロは最も小面積だが信徒数は最多の105,632名。ペンテコステ派の影響を強く受けた宣教姿勢で信徒数を増し、総会議でも発言権を振るう。08年には、カトリック教会が参加する宣教会議やエキュメニカルな組

織からすべて離脱する決議がなされ、メソジスト教会は孤立化しつつ現在に至っている。

しかし、最近、創立者 J. ウェスレーの信仰遺産に立ち返り、見直しを求める意見が挙がって来た。従来よりメソジスト教会の宣教には3つの大切な柱がある。

①福音宣教 ②教育(信徒訓練、教会学校) ③社会奉仕。

人を改宗させるだけでは社会は変わらない。一人ひとりをキリストの弟子として成熟させるために、信徒訓練を重視。そして、社会的弱者への連帯、奉仕を実践している。そのためには他教会との連帯協力は不可欠である。

創立者の明確な信仰モデルがあることに、私は希望を感じている。

無名者の声を聞くーマスメディアからのブラジル ではないブラジルを知ることの大切さ

高橋 一（教団無任所教師、前酪農学園大学教員）

この度、私はパラナの佐々木治夫神父といっしょに、10月17日～20日、28日～29日は単身で、小井沼眞樹子宣教師の奉仕されるレシーフェ／オリンダを訪問する機会を得た。短い訪問で、限られた紙面に多くを語ることはできないが、旅路を通して考えさせられたことをまとめてみた。

眞樹子さんが活動するブラジル東部のレシーフェ／オリンダには、サルバドールやリオ・デ・ジャネイロのような大都市に截然とした光景として見られるファベラ（スラム街）は、見当たらなかった。

しかし坂道の続くアルト・ダ・ボンダージ地区にバスで入ると、そこは居住環境としてはブラジルの都市特有の問題をかかえている場所であることをすぐに肌身で感じる。いたるところで大音響の音楽をかけている住人たち。屋台では昼間から酒を飲み、人がたむろする。密集した住宅街では、眞樹子さんの話しでは、アルコール依存症、暴力、麻薬売買なども少なくないという。多くの人には、これといった仕事もないのであろう。さらに問題なのは、ここで暮らす子どもたちが、結局親の生き方をなぞるような生き方を繰り返してしまうという事実である。眞樹子さんといっしょに訪ねたある教会員の家庭もそうであった。「もう一つの別な生」の可能性を選択しうるロールモデルが子どもの身近に存在しないからである。いろいろな男性との間に子どもをもうけてしまう母親。いつの間にか家庭からいなくなってしまう父親。アルコール依存に陥る親。周りは麻薬取引に従事している兄弟。このような世界から脱却することは、子どもにとっては一けっして容易なことではないのである。

ところで、このアルト・ダ・ボンダージ教会の創立者であるアメリカ人宣教師（故人）のお連れ合いが、今ここで眞樹子さんがもっとも信頼し、また眞樹子さんの働きを支えている一人であるブラジル人女性のジャニさんである。眞樹子さんと共に歩む会の尽力によって、今は隣接地にコミュニティセンターの建築も紆余曲折へて最終段階へこぎつけている。おそらく、そのような環境で生きざるを得ない人たちへの宣教と奉仕と教育を意図していたのであろう。

私はかつて、カンボジアの農村で生活したことがあるが、このブラジルの経済的貧困地域には、カンボジアの農村における「貧しさ」とは異なる、都市経済のひずみが集積されているように感じられた。日本の山谷や釜ヶ崎などで生活したことのある人を除いては、ふつうの日本人が、このオリンダ地区での生活状況を想像することは困難ではないかと思われた。

一方、この地区に入るとすぐに目につくのだが、こぎれいなペンテコステ派の教会がたくさん建てられている。癒しや奇跡などをうたうエヴァンジェリカ教会が多いそうだが、よく見ると、そこに結構な数の人たちが集まっているのである。それはなぜなのか。その理由も考えさせられた旅であった。

それにしても、このような状況とは無縁な生活を送っている富裕層のブラジル人も少なくないのが実情である。いわんや外国人にとっては、このような貧困地区の生活をほんとうに知ることは、それだけで一つの課題だと思われた。その具体的な例を挙げよう。

実はこのたびのブラジル研修の旅に先立って、私はアメリカとカナダに約2週間滞在し、特にカナダでは、カナダと日本の大学で長い間社会学を教えたS氏からいろいろなお話を聞くことができた。彼はカナダやオーストラリアの先住民の調査研究で多くの優れた著作を書き、カナダにおける日系移民の研究もしてきた人である。人種的差別や偏見に関する著作もある。私のブラジルでの研修期間中、S氏は、たまたまカナダの有力紙 The Globe and Mail から、ブラジルのファベラに関する長文の分析記事を自身の「カナダ通信」で紹介した（「リオは発展途上にある。だけど隅っこの方はどうだろう？」 Rio on the Rise, but What's around the Corner? Stephanie Nolen, 2013. 9. 21）。

このカナダの新聞社は、サッカー世界大会（2014年）とオリンピック（2016年）の取材にそなえて、新たにリオ・デ・ジャネイロ支局を設置し、ベテラン記者ノーレン女史を配属した。アフリカやインドで鋭い分析記事を書いてきた人だそうである。S氏はその記事を紹介する前に、日本の大手メディアに対しての短い批判的コメントを書いているので、ここではそれを引用してお



アルト・ダ・ボンダージ教会の祈祷会で

きたい（ノーレン氏の記事に関心のあるかたは、christngonpo@gmail.com へ連絡を）。

以下は、S氏のコメントと引用記事である。

『ところで、日本のメディアによるブラジルに関する報道には、私（＝S氏）には気になる点があります。私が「気になる報道」の一つを、例として下に引用してお目にかけます。

《リオのスラム街で空中散歩、ロープウエー観光客に人気》

治安が悪く危険地帯として知られたブラジル・リオデジャネイロのファベラ（スラム街）が観光客の人気を集めるようになってきた。サッカーW杯や五輪を控え、警察の取り締まりが強化され、住民による観光ツアーも開催されるようになった。

リオ最大級のファベラ、アレマオンでは、2年前に建設されたロープウエーが、絶景を楽しめるとして人気だ。もともとは、ふもとから山頂に向かって拡大していったファベラ住民の足として計画された。住民の運賃は1レアル。観光客も5レアルで約15分間の空中散歩を楽しめる。最近では巨大キリスト像のあるコルコバードの丘に次ぐ観光スポットとして注目を集めている。

リオ中心部にあるファベラ、サンタマルタでは住民によるファベラツアーが開催されている。マイケル・ジャクソンがミュージック・ビデオの撮影をしたことでも知られる。展望台にはマイケル・ジャクソンの銅像もあり、人気の記念撮影ポイントになっている。（朝日新聞、2013年9月6日）

この記事は、リオのファベラを「一つの観光資源」として、あるいは「一つの風景」として紹介しています。はっきり言えば、観光客はファベラの外の一段高い所に立って、「ファベラを上から眺めている」のです。「そのファベラに住む人間」への視点は、舞台裏に押しやられているように思われます。

「小項目主義」という日本のメディアの形式から、後で援用するような、（ノーレンが書いているような）立ち入った分析を含む大項目の報告を掲載することは困難であるのはわかる気がします。でも、ブラジルは日本からの移民が長く住み着いた国ですから、日本にいる人びとに「遠いブラジルという国の『人間』」に関する報道もしてほしいという希望が私の中にはあるのです。』

S氏が引用している朝日新聞記者の視点は（短い記事だったという制約はあったであろうが）、たしかにあまりにも「上からの視線」である。朝日新聞が今どれほどの読者数を日本で持っているのかは知らない。しかしブラジルに関する限り、ほとんどの日本人はこのようなマスメディアからしか情報を得ることができないのが実

情であろう。しかし、そこに大きな落とし穴があるのではないか。



足を患っているトインニャさんを訪問

S氏のコメントは、私たち日本人が、今の日本のマスメディアから受け取るブラジルに関する情報だけでは、ブラジルの生きた人間の声—そこで生きている人の表情、怒り、喜び、悲しみ、あきらめ、願い—は知ることができないという事実をも指摘しているように私には思われた。そう考えると、現在、日本のマスメディアにおける知性の劣化が言われて久しいが、そのマスメディアだけでしかブラジルの情報を知らされない恐れのある私たちの知性も（さらには信仰も）今は問われているのではないか。オリンダ地区を訪問し、あらためて眞樹子さんの「オリンダ通信」のバックナンバーを読みながら、私にはそう思われた今回の旅であった。

眞樹子さんがこの「オリンダ通信」や「ラキネット会報」をとおして、困難な状況の中で、それでも神を信じて生きている人々の、信仰の喜び、感謝、涙、苦しみの声を日本人に届けることは、だからこそ、それだけで実は大きな意味があるのではないか。私はこの研修の旅をとおして、また眞樹子さんといっしょにオリンダ地区の信徒のみなさんを問安し、交わりを与えられ、短い期間ではあったが、そう思われてならなかった。それゆえに、眞樹子さんの宣教を覚え、支えることは、実は私たち自身の「信仰と知性」の劣化を防ぐためにも必要なのではないかと思わせられたのである。

（2013年11月29日）

眞樹子師の連絡先（通信の読後感を待っています）

住所：Rua João Fernandes Vieira, xxx xxx

Boa Vista, Recife-PE 50050-200 BRASIL

電話：（省略）

メール：（省略）

編集後記

T. H

小井沼眞樹子宣教師は、ブラジルと日本の教会の交流と連帯のため、日本語を全く使わないブラジルの貧しい共同体で奉仕したいという夢をお持ちでした。「サンパウロ福音教会」の牧師として10年間活躍され、「筋萎縮性側索硬化症」により2006年に61歳で生涯を閉じられた小井沼国光牧師の「ブラジル宣教を自由にやりなさい」の言葉と宣教生活の経済的基盤をバックに「アルト・ダ・ボンダージ」教会へ赴任されました。

早いもので5年と言う月日が経過し、「オランダ通信」

は2009年4月の創刊から、今回第10号の発行を迎えました。この間、眞樹子宣教師の活動報告や多くの方々からの寄稿によりブラジル社会の現況、教会の活動、神様を信じている信仰者の現実、アルト・ダ・ボンダージ地区と教会のこと等多くのことを知り、学ぶことができました。やはり大切なことは寄りそう心、共に歩む姿勢であり、微力ながらも小井沼眞樹子宣教師の活躍を願い、応援したいと思います。「神様のなせる業」の計り知ることができない愛と恵みに感謝しつつブラジル・レシーフェでのご活躍と健康を祈ります。（横浜港南台教会員）